

デンソー冷凍機 ご使用上のお願い

はじめに

本資料は 22年1月時点で販売していないデンソー冷凍機取扱説明書に対し
フロン排出抑制法対応等で取扱説明書の内容を変更した主要項目について記載しています。
お手持ちの説明書と合わせてお読みください。

1. 知っておいていただきたいこと

フロン排出抑制法対応で下記 赤線部が変更されています。

必ずお読み
ください

知っておいていただきたいこと

1. 取扱説明書の内容について

本取扱説明書は、オプション装備を含むデンソー冷凍機（以下、冷凍機）のお取り扱いに関する注意事項、正しい使用方法、メンテナンス、故障時の対応について説明しています。

車両によっては、お客様の冷凍機仕様にはない装備の説明が記載されている場合があります。お客様の冷凍機仕様と説明内容が一致しない場合がありますのでご了承ください。冷凍機の仕様は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

2. フロン排出抑制法について

本製品は、フロン排出抑制法の対象製品となり、法律上、冷凍・冷蔵機器の管理者（使用者）に下記項目が義務付けされています。

- ・ 3か月に1回以上、機器の簡易点検を実施する。
 - ・ フロン類の漏えい、機器の故障を確認した場合は、速やかに専門点検（専門家による点検）を実施し、修理を行う。
 - ・ 点検・整備、および修理の内容と結果を記録し、当該製品を破棄するまで保存する。製品に対するフロン類の充てん・回収は、第一種フロン類充てん回収業者で行う。
- 各機器の点検内容は、「簡易点検の実施について」を参照してください。

2. 安全にご使用いただくために

表示方法&内容が最新版に変更されています。

必ずお読み
ください

安全にご使用いただくために

1. 安全上のご注意

冷凍機を安全に使用していただくため、記載の注意事項についてよくお読みいただき、必ずお守りください。

2. 表示の説明

 危険	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷 ^{*1} を負う危険が想定され、発生時の緊急性が高いこと”を示します。
 警告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷 ^{*1} を負う危険が想定されること”を示します。
 注意	“取り扱いを誤った場合、使用者が傷害 ^{*2} を負う危険が想定されるか、または物的損害 ^{*3} の発生が想定されること”を示します。
	“してはいけないこと（禁止事項）”を示します。
	“していただきたいこと（指示事項）”を示します。 図の中には具体的な内容を示します。 (左図は「アース工事を行ってください」を意味します。)
<注意>	“製品が破損したり、正常に動作しなかったり、性能を発揮できないこと”を示します。
[アドバイス]	“知っておくと作業をする上で役立つ情報”を示します。
[参考]	“知っておいていただきたい知識、知っておくと便利な知識”を示します。
前、後、右、左	特に記載のない限り、文中の、「前」、「後」、「右」、および「左」は、運転席に着座した場合の方向を示します。

*1: 重傷とは、失明やけが、やけど（高温/低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院や長期の通院を要するものを指します。

*2: 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などを指します。

*3: 物的損害とは、家屋、家財、家畜、ペットなどに関わる拡大損害を指します。

3. 冷凍機使用時の注意事項

⚠ 危険

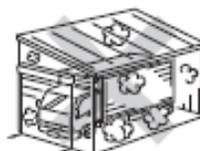


走行中に冷凍機コントロールパネルを操作しないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になったり、運転を誤ったりして、交通事故の原因になります。車両を停車させてから操作してください。

⚠ 警告



屋内駐車場などの換気の悪い場所では、エンジンを作動させないでください。
排気ガスによる一酸化炭素中毒の原因になります。



可燃性ガスが漏れるおそれのある場所では、冷凍機を運転しないでください。
発火の原因になります。



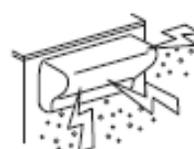
ガソリンスタンドなど爆発の可能性がある大気中で、冷凍機を運転しないでください。
気化したガソリンへの引火により、爆発、発煙、火災の原因になります。



揮発性・引火性のあるものを庫内に入れしないでください。
庫内で気化したガソリンへの引火により、爆発、発煙、火災の原因になります。



冷凍機の異常時、故障時は、冷凍機を速やかに停止してください。
異常、故障のまま冷凍機を使用すると、漏電、感電、発煙、火災の原因になります。



冷凍機の運転中は、ファンなどの回転体に触れないでください。
ファンによるけがの原因になります。



空気の吸い込み口や吹き出し口には、棒や手を入れないでください。
内部で回転しているファンにより、けが、故障の原因になります。



⚠ 警告



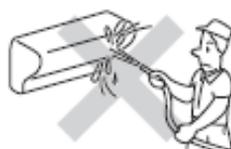
冷凍機の清掃、点検、整備時は、主電源操作パネルの電源を OFF にした後、エンジンを停止してください。

主電源操作パネルの電源を ON にしたまま、エンジンを停止すると、冷凍機の予期しない起動によるけが、漏電、感電の原因になります。



電気部品に水を掛けたり、水で洗淨しないでください。

故障、漏電、感電の原因になります。



荷室の扉を閉める場合は、庫内に人がいないことを確認してください。

人を庫内に取り残したまま冷凍機を使用すると、凍死などの重大な事故に繋がる原因になります。



非常警報装置が作動する（スイッチ ON でホーンが鳴る）ことを確認してください。

装置が正常に作動しないと、万一庫内に人が閉じ込められた場合に外部に危険を知らせることができず、重大な事故に繋がる原因になります。



冷媒やコンプレッサーオイルが漏れた場合は、眼に入れたり皮膚への付着、吸入、誤飲が起きないようにしてください。

凍傷、失明、肺炎など健康障害を起こすおそれがあります。



冷媒の漏れ発見した場合は、直ちに最寄りのサービスステーションに連絡してください。

守らないと、失明、凍傷の原因になります。



車両がタイヤより上まで水没した場合は、冷凍機を使用せずに、直ちに最寄りのサービスステーションに連絡してください。

故障、漏電、感電の原因になります。

床下搭載の冷凍機部品の交換が必要になります。



電源ボックスが冠水した場合は、冷凍機を使用せずに、直ちに最寄りのサービスステーションに連絡してください。

電気回路の故障、漏電、感電の原因になります。

⚠ 警告



高電圧の配線(オレンジ色)およびその接続部に触れないでください。
漏電、感電の原因になります。



冷凍機の清掃時、点検時に脚立を昇降する場合は、踏みさんを踏み外さないよう足下に気をつけてください。

足下を踏み外すと、転落してけがなどの重大な事故に繋がる原因になります。



ユニットカバーなどの樹脂部品にオイル・潤滑剤・溶剤・洗剤を付着させないでください。万一、オイル・潤滑剤・溶剤・洗剤が樹脂部品に付着した場合は、確実に拭き取ってください。

オイル・潤滑剤・溶剤・洗剤が樹脂部品に付着すると、樹脂部品に亀裂が発生し、重大な事故や製品の故障の原因になります。



運行前に、冷凍機部品(各ユニットやユニットカバーなど)の損傷や取り付け状態に異常がないか確認してください。

部品が破損していたり、錆・腐食・緩みなど固定が不十分な場合、走行中に破損・脱落し、重大な事故を引き起こす可能性があります。

必ず取付状態を確認し、ガタ・亀裂・損傷が認められた場合は運行前に修理してください。



⚠ 注意



冷凍機の点検、清掃時は、車両が動き出さないよう、パーキングブレーキを掛け、輪止めをしてください。

車両が動き出し、けが、事故の原因になります。



輸送用冷凍機として使用してください。

目的外の用途で使用すると、本来の性能を発揮できなくなるだけでなく、積荷の品質低下などの原因になります。



冷凍機に乗る、ぶらさがる、足を掛けるなどの行為をしないでください。

けが、故障の原因になります。

⚠ 注意



冷凍機の運転中や運転停止直後は、冷媒配管に触れないでください。冷媒配管は熱くなるため、やけどの原因になります。

4. 外部電源使用時の注意事項（スタンバイ機能付きの場合）

⚠ 警告



冷凍機の外部電源は、三相交流 200 V、50/60 Hz を使用してください。他の電源を使用すると、冷凍機の故障、発煙、火災の原因になります。

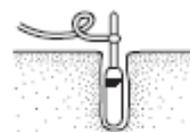


電気工事は電気工業者が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」に従って施工し、必ず冷凍機 1 台ごとに、漏電ブレーカーを設置し、専用電源として使用してください。漏電ブレーカーの仕様詳細は、「冷凍機専用回路の施工 (P52)」を参照してください。

電気回路の容量不足や施工不良があると、発煙、火災、漏電、感電の原因になります。



冷凍機 1 台ごとに、アース工事（電気工業者による第 3 種接地工事）を施工してください。「冷凍機専用回路の施工 (P52)」を参照してください。施工不良があると、発煙、火災、漏電、感電の原因になります。



電源に使用する機器は、雨水など、水が掛からない場所に設置してください。雨水など水が掛かると、発煙、火災、漏電、感電の原因になります。



電源コンセントは、電源コード抜け防止のため、アース端子付きロック式コンセントを使用してください。

規定のコンセント以外を使用すると、冷凍機の使用中に電源コードが抜けて、故障、漏電、感電の原因になります。



屋内で冷凍機を運転する場合は、スタンバイ運転をしてください。もしエンジン駆動で運転する場合は、十分換気をしてください。排気ガスによる一酸化炭素中毒の原因になります。

警告



電源コードは、冷凍機付属の専用コードを使用してください。

専用コード以外の電源コードを使用したり、途中で電源コードを接続したり延長コードを使用すると、漏電、感電、発熱、発火の原因になります。



電気部品に水を掛けたり、水で洗淨しないでください。

故障、漏電、感電の原因になります。



電源コードを加工したり、無理な曲げ、引っ張り、ねじりなどの力を加えたり、電源コードの上に物を載せたり、電源コードを物の間に挟まないでください。

電源コードが破損して、発煙、火災、漏電、感電、発熱の原因になります。



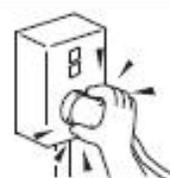
濡れた手で、電源コードのプラグなどの電気部品に触れたり、スイッチを操作しないでください。

漏電、感電の原因になります。



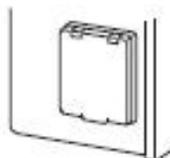
電源コードのプラグを抜く場合は、プラグを持って抜いてください。

コードを引っ張ってプラグを抜くと、芯線の一部が断線して、発熱や発火の原因になります。



電源コンセント不使用時は、保護カバーを必ず閉じてください。保護カバー破損時は、速やかに修理してください。

破損状態で使用すると、発煙、火災、漏電、感電の原因になります。



電源コードのプラグにごみや埃が付着していないことを確認して、プラグを右に回して確実にロックしてください。

プラグにごみや埃が付着していたり、ロックが不完全な場合、発煙、火災、漏電、感電の原因になります。



⚠ 警告



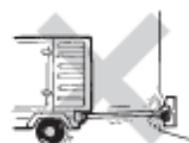
異臭や煙などの異常に気づいたときは、直ちに外部電源の使用を中止してください。

機器の故障により、発煙、火災、漏電、感電の原因になります。



電源コードを接続したまま車両を動かさないでください。

電源コードを接続したまま車両を動かすと、機器が破損して、発煙、火災、漏電、感電の原因になります。



電源コードのプラグの抜き差しによる、スタンバイ運転の開始または停止を行わないでください。

故障、漏電、感電の原因になります。



冷凍機の運転中は、電源コードを取り外さないでください。

電気回路の故障、漏電、感電の原因になります。



電源ボックスや電源コードの金属製接点に触れないでください。

電気回路の故障、漏電、感電の原因になります。



大雨などで車両やコンセント周辺が浸水するおそれのあるときは、外部電源の使用を中止してください。

電気回路の故障、および、発煙、火災、漏電、感電の原因になります。



雷が鳴り出したら、外部電源を使用したり、電源コードや周辺の電気部品に触れたりしないでください。

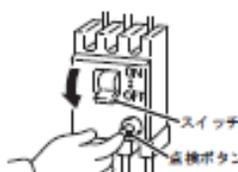
落雷による、発煙、火災、漏電、感電の原因になります。

⚠ 注意



漏電ブレーカーは、毎日 1 回動作確認をしてください。故障している場合は、速やかに修理してください。

漏電ブレーカーが故障したまま使用すると、漏電時に感電、発煙、火災の原因になります。



⚠ 注意



電源コンセントは、毎日点検をしてください。損傷している場合は、速やかに修理してください。

電源コンセントが損傷したまま使用すると、故障、漏電、感電の原因になります。



5. サブバッテリー使用時の注意事項（サブバッテリー付きの場合）

⚠ 警告



修理が必要なときは、お買い求めいただいた販売店、または最寄りのサービスステーションに連絡してください。

万一、サブバッテリーが損傷しているときなどは、自動車整備に関する知識がないと、重大な障害を受ける原因になります。



植え込み型心臓ペースメーカー、または植え込み型除細動器（ICD）などの医療電気機器を使用している方は、機器に及ぼす影響について、医療電気機器製造業者に確認した上で、充電作業をしてください。また、サブバッテリーの充電中は、サブバッテリーに近づかないでください。

ペースメーカーのペーシング出力に影響を及ぼし、ペースメーカーの誤作動を引き起こす原因になります。

6. 修理時の注意事項

⚠ 警告



専門業者以外の方は、絶対に分解、修理をしないでください。

分解・修理に不備があると、異常動作によるけが、漏電、感電、発煙、火災の原因になります。



冷凍機の改造、仕様変更を行わないでください。
発煙、火災、漏電、感電など重大な事故の原因になります。



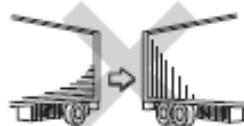
規格品、規格容量以外のヒューズを使用しないでください。

銅線、針金など規格外の物をヒューズとして使用すると、
発煙、火災、漏電、感電の原因になります。



専門業者以外の方は、冷凍機を他の車両に寄せ替えないでください。

取り付け不備による機器の落下、けが、漏電、感電など重大な事故の原因になります。



指定外の冷媒、コンプレッサーオイルを使用しないでください。
爆発、発煙、火災の原因になります。

⚠ 注意



車両の修理に溶接を伴う場合は、車両バッテリーのマイナス（－）端子を取り外した上で、溶接作業を開始してください。

また、スタンバイ機能付き冷凍車の場合は、冷凍機の電源コードを接続しないでください。

冷凍機故障の原因になります。

7. 事故を起こしたときの注意事項（サブバッテリー付きの場合）

危険



サブバッテリーから火災が発生したときは、できるだけ早く車両から離れてください。

消火するときは、必ず電気火災用の消火器（ABC/CB/C タイプ）を使用してください。また、消火栓などから大量の放水が可能な場合のみ、水での消火も可能です。

不適切な方法で消火すると、爆発などの原因になります。

警告



走行中などで車両に強い衝撃を受け、車両が変形したなどの損傷があるときは、安全な場所に停車して、最寄りのサービスステーションに連絡してください。

万一、サブバッテリーが損傷しているときなどは、発煙、火災、漏電、感電など重大な事故の原因になります。



サブバッテリーの液体が漏れているときは、絶対に触れないでください。

万一、漏れた液体が皮膚や衣服に付着したときは、水道水などのきれいな水で洗い流し、速やかに医師の診察を受けてください。

健康被害を引き起こす原因になります。

3. 長く最適にご使用いただくために

注意点等が最新版に変更されています。

必ずお読み
ください

長く最適にご使用いただくために

1. ご使用上のお願い

冷凍機を長く・最適に使用していただくため、また、積荷の品質を保つために、下記のことをお守りください。

2. 始業前

運行前に、冷凍機部品の損傷や取り付け状態に異常がないか確認してください。また、エンジン始動後いつもと違う異音が発生していないか確認してください。

部品が破損していたり、錆・腐食・緩みなど固定が不十分な場合、走行中に破損・脱落し、重大な事故を引き起こす可能性があります。必ず取付状態を確認し、ガタ・亀裂・損傷が認められた場合は運行前に修理をしてください。



エバポレーターなど庫内の氷の付着を点検して、着氷しているときは解氷してください。

着氷した状態で使用すると、製品の故障、製品の性能を損なう原因になります。

[参考]

冷凍機を長時間使用すると、排水経路やエバポレーターに氷が付着し堆積することがありますので、下記の方法で解氷する必要があります。

- ・ 解氷方法1：冷凍機の運転を停止した後、ドアを開放して自然解氷する。
- ・ 解氷方法2：外気温度が低いときは、冷凍機の運転を停止した後、排水経路やエバポレーターにぬるま湯を掛けて解氷する。

1週間に1回5分以上、冷凍機を運転してください。

スタンバイ機能付きの場合は、スタンバイ側のコンプレッサーも同様に、運転してください。

定期的に冷凍機を運転することで、コンプレッサーの故障を予防できます。

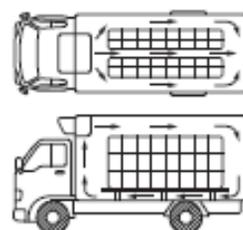
積荷と庫内は積み込む前に必ず適温に冷却しておいてください。

積荷の適温が保たれないと、積荷の品質が低下します。



冷気が庫内を対流するように、積荷と庫内壁の間に隙間を設けて積み込んでください。

積荷と庫内壁の間に隙間がないと冷気が対流せず、庫内の温度が均一でなくなり、積荷の品質が低下します。



3. 配送中

できるかぎり日陰に駐停車してください。

炎天下に車両を駐停車すると、庫内の冷却性能に影響する場合があります。



冷凍機運転中のドアの開閉は迅速に行ってください。

ドアを開けている時間が長くなる程、庫内の冷気が庫外へ逃げて庫内温度が上昇します。



積荷の積み降ろしは迅速に行ってください。

ドアを開けている時間が長くなる程、庫内の冷気が庫外へ逃げて庫内温度が上昇します。



4. 終業後

ドアを開放して庫内を乾燥させてください。

庫内を乾燥させないまま使用すると、氷が付着する原因になります。



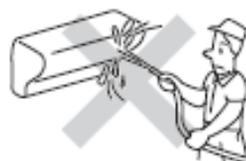
庫内を掃除し、清潔にしてください。

清潔を保たないと、積荷の品質が低下します。



高圧洗浄機やスチーム洗浄機で洗浄しないでください。

高圧洗浄をすると、コンデンサーフィンが変形します。
スチーム洗浄すると、装置内の圧力が上昇して、故障の原因になります。



コンデンサーフィンに泥や埃などが付着している場合は、水で洗浄してください。

洗浄後は、冷凍機を作動させて、ファンやモーターに付着した水分を取り除いてください。

泥や埃などが付着したまま使用すると、本来の性能を発揮できなくなります。



5. 積荷の適温一例

適用	温度帯						適用	温度帯				
輸送適温	0℃						輸送適温	0℃				
品目	-20	-10	-5	+5	+10	+20	品目	-5	+5	+10	+20	
	-15	-5	+5	+15				+5	+15			
(冷凍食品) アイスクリーム 冷凍果実・濃縮ジュース 冷凍魚類 冷凍肉 冷凍ハム							(生鮮果実類) ぶどう・りんご さくらんぼ・すもも メロン・梨類 オレンジ・もも パイナップル レモン・バナナ					
(生鮮食品) 加工肉 生肉 プロイラー 卵 ラード・ソーセージ 燻製ベーコン 塩漬ハム							(生鮮野菜類) 西洋まつたけ アスパラガス 野菜類 生花類 ポテト たまねぎ さつまいも・かぼちゃ トマト					
(乳製品) マーガリン チーズ ミルク・生クリーム バター							(菓子類) イースト はち蜜 チョコレート・キャンデー					
(生鮮魚介類) 生魚・かき 燻製魚類							(その他) フィルム・医薬品					

食品などの輸送適温例（最適保持温度）

F001059

4. 簡易点検の実施について

注意点等が最新版に変更されています。

必ずお読み
ください

簡易点検の実施について

1. 簡易点検の実施

本製品は、フロン排出抑制法に基づき、3か月に1回以上、冷凍・冷蔵機器の管理者（使用者）に、簡易点検の実施が義務付けされています。

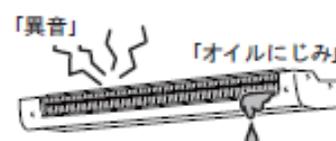
2. 簡易点検項目

- ・ 製品からの異音の有無
- ・ 製品外観の損傷、腐食、錆、油にじみ、熱交換器への霜付き、などフロン漏えいの徴候の有無

異常を発見した場合は、速やかに点検・修理を行う必要がありますので、最寄りのデューサーサービス店に依頼してください。

●クーリングユニット

- ・ 熱交換器（エバポレーター）にオイルのにじみがないこと
- ・ クーリングユニットの内部から異音が発生しないこと
- ・ 吹き出し口から冷風が出ていること



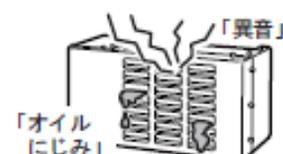
●パッケージ型ユニット

- ・ 熱交換器（エバポレーター、コンデンサー）にオイルのにじみがないこと
- ・ モーターから異音が発生しないこと
- ・ 吹き出し口から冷風が出ていること



●コンデンスユニット

- ・ 熱交換器（コンデンサー）にオイルのにじみがないこと
- ・ コンデンサーモーターから異音が発生しないこと

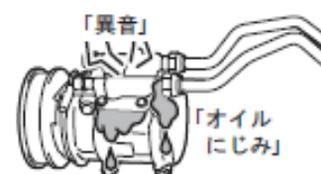


●コンプレッサー

- ・ 部品接合部にオイルのにじみがないこと
- ・ コンプレッサー本体から異音が発生しないこと

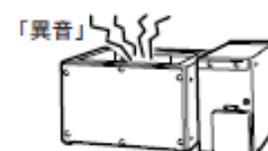
●冷媒配管

- ・ 各種冷媒配管の接続部にオイルのにじみがないこと



●スタンバイユニット（装着車のみ）

- ・ スタンバイユニットから異音が発生しないこと（スタンバイ運転時のみ）



●冷媒量

- ・ サイトグラスを確認して冷媒量が適量であること
(冷凍運転を開始してから約 15 分後)

サイトグラスによる冷媒量の判定



冷媒が適量



冷媒量不足

5. 定期メンテナンスについて

メンテナンス項目にボルト締結部を追加、定期交換部品見直し(赤枠部)
(下記は 一般汎用冷凍機の事例を掲載しています。)

必ずお読み
ください

冷凍機のメンテナンスについて

1. メンテナンスについて

冷凍機をいつも最適な状態で使用していただくため、お買い求めいただいた販売店、または最寄りのサービスステーションで、一年ごとにメンテナンスを受けてください。

2. 交換対象部品発生時のお知らせ機能について

本冷凍機は、コントロールパネルに Ψ を点灯させて、推奨交換時期に到達した冷凍機部品が発生していることをお知らせすることができます。

この機能をご利用になりたいときは、お買い求めいただいた販売店、または最寄りのサービスステーションに相談してください。

3. メンテナンス項目一覧

点検部品/箇所		点検内容
主要部品*1	冷凍機部品	各ユニット、 ユニットカバー、 部品の取り付け状態および損傷
	ボルト締結部 (ワッシャー⇄カバー隙間部)	ボルトの緩み、腐食、ガタ、パッキンのへたりなきこと
	コントロールパネル	スイッチの作動、ディスプレイの表示が正常なこと
	高・低圧ホース、配管	取り付け状態、変形、外れ、つぶれ、膨らみ、損傷なきこと 接続部などからのガス漏れをガスリークテスターで点検
	配管、配線のクランプ固定部	緩み、ガタなきこと
	ワイヤーハーネス	コネクタの緩み、損傷、ワイヤーハーネスの損傷なきこと
	サイトグラス	冷媒量を点検 異常：連続して気泡がみられる
	エンジン駆動コンプレッサー	オイル漏れ、異常なきこと オーバーホール
	マグネットクラッチ	運転スイッチ ON でマグネットクラッチの作動および異音を点検
	アイドルブリー	異音および振れなきこと
	Vベルト	摩耗、損傷なきこと、張り具合の点検
	コンデンシングユニット	コンデンサーフィン 目づまり、つぶれ、損傷なきこと
	モーター 異音、回転状態を点検	
	レシーバー 損傷なきこと	

4. 定期交換部品について

下表の部品は、冷凍性能を確保するためにも、定期的な交換をお勧めしている部品です。外観で劣化状態（摩耗、損傷など）を点検できる部品は、定期的に点検していただき、早めの部品交換をお勧めします。

点検できない部品は、メンテナンス時の部品交換をお勧めします。

クーリングユニットのタイプによって交換対象部品が異なります。

<注意>

下表の推奨交換時間は目安です。保証時間ではありません。
各部品の稼働時間はコントロールパネルで確認してください。

冷凍機の仕様は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

推奨交換時期	交換部品名
適宜	Vベルト*1、LLC*2、樹脂部品（ユニットカバーなど）*3、ゴム部品（ボルト締結部など）*3
3,000 時間	ウォーターポンプ
6,000 時間	コンデンサーモーター（Sタイプ）
8,000 時間	エンジン駆動コンプレッサー、高・低圧ホース（エンジン駆動側*4、電動側*5）、レシーバー*6
11,000 時間	電動コンプレッサー
16,000 時間	マグネットクラッチ
24,000 時間	コンデンサーモーター（Lタイプ）

*1: Vベルトは、外観で劣化状態（摩耗、硬化、亀裂など）を確認し適宜、交換してください。

*2: LLCの交換時期は、車両の取扱説明書に従って交換してください。

温水加温付きの場合、LLCの濃度は、仕様地域に関係なく50%にしてください。

*3: ユニットカバー、締結部は、腐食、ガタ、へたり、摩耗、亀裂がある場合は交換してください。

*4: 高・低圧ホース（エンジン駆動側）は、エンジン駆動コンプレッサーの稼働時間を参考にしてください。

*5: 高・低圧ホース（電動側）は、電動コンプレッサーの稼働時間を参考にしてください。

*6: レシーバーは、推奨交換時期の他、冷凍サイクル開放の都度、交換してください。

6. 連絡先について

連絡先の名称を変更しています。

デンソー冷凍機 夜間・休日サービス相談窓口

<コールセンター>

フリーダイヤル : 0120-687-010

受付時間 : 平日の夜間 18:00~翌日9:00
土・日曜・祝日の終日

平日昼間のサービス相談については、お買い求めいただいた販売店、または最寄りのサービスステーションまでご連絡ください。

<販売元> 株式会社デンソーソリューション

本社 〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1
本社東京オフィス 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-15-13

株式会社デンソーソリューションの拠点情報は、以下のウェブサイトでご確認ください。

<https://www.denso-solution.com/company/location/>



サービスステーションの店舗情報は、以下のウェブサイトでご確認ください。

<https://www.denso-solution.com/service-support/vehicle/>



<製造元> 株式会社デンソー

本社 〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1